

# 『養生』（初演—2024年版）

作・池田 亮

## 《登場人物…キャスト三名》

橋本一はしもと……男性。美大の美術学部絵画科卒。  
阿部一あべ……男性。私大の経済学部卒。  
川口一かわぐち……男性。橋本と阿部の大学時代の社員。  
清水一しみず……男性。川口役が演じる。新入社員。美大の芸術学部卒。

## 《舞台設定》

百貨店の内装を行う夜勤現場にて。

橋本と阿部の大学生時代から始まる。

その後、現在の正社員時代が描かれる。

## 《備考》

二段になっている部分は同時進行する。

## 0—開演前

いくつもの養生テープが垂れている壁がある。だいたい150本ぐらい。壁から垂れた養生テープは床に張り付いて、床を覆っている。養生テープの壁の後ろには人が通れるスペースがある。

アルミ脚立3台を梯子状態にし、脚同士を直角に繋げ、コの字の形に接続し門のような形の立体物が置いてある。

脚立の立体物は3つあり、サイズは3尺×3、4尺×3、5尺×3となっている。

マネキンが2台ある。そのマネキンたちは現在（正社員時代）の橋本と阿部の服装をしている。

これらの立体物がインスタレーション作品として開演前に展示されている。

開演前、回遊型の展示のように観客が観客席へ向かう際、舞台上や裏通りを通る。養生テープの壁の裏面から客席を見せる。

橋本役、阿部役、川口役の3人が係員となり観客をアテンドする。

丙次

いらっしやいませ。本日はお足元の悪い中、ゆうめい『養生』にお越しくださりまして誠にありがとうございます。主宰で俳優の田中祐希と申します。はい。えっとですねあの僕は西新宿の、今俳優って自分から言っただけですけど、西新宿のホテルにあるですね、レストランのキッチンで皿洗いのアルバイトをしています。あ、ちょっと自分のことを少しだけ話させてください。あのですね、新宿のホテルのレストランと言ってもですね、キッチンはすごく狭くて、ま、こう：汚い感じでして、ま、そこで主に僕はこう、皿を洗っております。収入の9割ぐらいがですね、アルバイトなんです。俳優と言っても。あ別にあのこれはあの、暗い話とかではありません。で、一緒に働いてるのがキッチンさんです。で、キッチンさんというのなんかこう、なんて言うんですかね職人気質と言いますでしょうか、うん、なんかこう言葉が荒いというか、気が合わないとか、ま感じが悪いんですね、はい。あの、すいませんこの中にキッチンで働いてる方いらっしやいましたら、多分、僕の職場の、っていう限定だと思っただけでも、あくまで自分の身近なところであつていうんですけど、まなんか基本的にですね、こう、仕事の指示とかも2文字か3文字、ぐらいで飛んでくるんですね。「やれ」とか「早く」みたいな。ま、こないだもなんか僕がこう、お皿を洗ってた横から岩石男みたいなやつがこう、バって来て、コック帽かぶってるんですけど。で、なんか「ちよつといい？」って言われたんですよ。で、それで「何でしょう？」って意味で「はい？」って僕が言ったら、「ちよつといい？」ってまた言われて、「なんですかって言ったら、「のけ！(退け)」って言われて。あ、「ちよつといい？」って「のけ！(退け)」っていう意味もあるんだっていうのも学ばせてもらってます。はい。ま、そんな環境でアルバイトをしております、ま正直きつい時もあるんですけども、まなんといいますかね、もう僕はこう、俳優として今、反骨心をこう：貯める、この環境で反骨心を貯めるんだと思って、なんとか続けております、はい。ま、でも正直はアルバイトはやめたくてですね、で俳優としても、こう：もう何段階もステップアップしたいと思っ、生まれ変わりたいと思っ、あの今僕、田中祐希って先ほど最初に名乗ったんですけど、この公演を終えましたら、僕は新しい名前に改名いたします。はい。新しい名前は「丙次」と言います。甲乙丙の丙の字に次と書いて、丙次です、はい。あの皆様のお手元にあるですね、パンフレットにあの、僕のプロフィールを織り込ませてもらっておりますので、是非あのお目を通してください。はい。あ、そしてあの、関係各所の皆様、あの、もし僕を見てですね、僕の演技を見て「いいな」とか「あ、いいじゃん使えるじゃん」と思いましたら、是非あの、ご連絡お待ちしております。あの電話番号もそちら

に書いておりますので記載しておりますので、24時間受け付けて  
おりますので、是非ご利用ください。ご利用ください。お願いしま  
す、連絡お願いいたします。すいません、あのなんか劇の前にちよ  
つと自分のことをベラベラと喋ってしまったんですけども。それで  
はえっと観劇前の諸注意でございます。携帯電話、PHS、スマー  
トフォン、スマートウォッチなどですね、音や光の出る機器はあら  
かじめ電源をオフでお願いいたします。え、それから観劇中の食べ  
物ご飲食なんですけども、食べ物もNGでお願いいたします。です  
が飴とかはオッケイです。ええ飲み物も蓋付きのペットボトルとか  
だったらガンガン飲んじゃってください。はい、え、それからです  
ね、本日ありがたいことに大変込み合っております、上演中もし  
なんか具合が悪かったりとか、あとトイレに立ちたいみたいなこと  
がございましたら、あと、まあ中々立ちづらいとは思いますが、す  
も、こう「すいません」という形でこう。ちょっとアピールしてい  
ただいて、周りのお客様も助け合いの精神で、右手奥後方の扉から  
ですね、劇場ロビーに出られますので、そこからお手洗いや外の  
空気を吸うなど、あとまたスタッフに声をかけるなど、あの、お願  
いいたします何卒。中々ちよつと外に出づらい形の環境にはなつて  
いるんですけども、皆様助け合いの精神でお願いいたします。はい、  
そしてあとは有事の際ですね、スタッフの方が皆様を誘導いたしま  
すので、その場で待機でお願いいたします。大きな地震や家事など  
のあったら困るんですけども、劇場から出る出口というのは、皆様  
今ここからあの席につかれたと思うんですけども、あの入ってこら  
れた劇場の入り口の他にですねロビーの窓からベランダに出られま  
す。ベランダから階段を下ると外にも出られます。また右手奥の方  
にも外に繋がる扉がございます。こちらをちよつと、頭の片隅に入  
れておけば、もし何かあった時のために何かこう、役に立つのかな  
と思っておりますので、頭の片隅に入れてもらえれば幸いです。え、  
そして本日撮影をしますのでカメラがあります。ご了承ください。  
上演時間はですね、100分を目指しています。それでは始めます。  
ありがとうございます。

開演時間となると、橋本が美大の講評時の程で話し始める。

橋本

はい。えっとですねあの僕の卒業制作の発表を、始めたいと思います。僕の作品がですね、え今皆さんが通ってこられたあの、これらの百貨店の夜勤現場になります。あの、よくグルメフェアとかのタペストリーとかポスターとか、あのあとイルミネーションとか、まあそういうのをこう設置したり撤去したりする、夜勤の内装作業なんですけど。なんかあの、よくこう美大の人に紹介してるあの、仕事なんです皆さんもあの行ったことある人多いと思んですけど、あ先に言おうと思ってたんですけど、あの、僕えっと、油絵科なんですけど油絵専攻なんですけど、なんか今ちょっと、なんかこういう作品が作りたいなと思って、立体の作品を作りました。はい。で、これ僕のバイト先になるわけなんですけど、結構激しめていうか、なんかこう人が、精神参っちゃう系のそういう職場なんですけど。あの、なんかこうたくさん養生テープ貼ってあるんですけど、これあの僕が知る限りのあのバイトがバックれた人数を表しています。大体150人ぐらいです。やべえでしょ。ま、でもあれですね、なんか美大の人よりもマーチとかそっち系の人の方がやめる人多かったです。はい。であの、なんかこう社員の人とかもよく働くからかなんかどんどん精神おかしくなってきた、あ、であの、梯子とかこう脚立がこれ3つあるんですけど、あのなんか僕が、その僕のバイト先が本当にあまりにも人がやめてくもんだから、なんかあのその百貨店の入り口が、こう「地獄の門」に見えてきたんです口ダンの。それから僕は、どの百貨店の入り口見ても全部地獄の門に見えるんですよ。なんかあれですね、あの二子玉の高島屋はもう完全に地獄ですね。マルイはまあ、そこそこというか、あのルミネはもう基本全て地獄の門ですね。ま、このこう脚立たちが重なった時に、この地獄の門になんじやないかなと思って、作りました。脚立がこう脚として成り立ってないというか、あの養生テープが養生テープとして成り立ってないみたいなの、まあそういう、こう、用途以外のものの方、みたいなのをコンセプトに作りました。はい、という感じで、これでまあ僕も美大を卒業ということになるんですけど：僕がああ、今のバイト先結構好きでして、なんでしよう、なんかいや、めっちゃしんどいんですけど、なんか作品作るより好きかもなっているか、いやなんか、いや好きかもなとか思ってる、いや好きかもなんですよマジで。なんか、あの、いろんなこう、デザイナーのポスターを貼ったりとか、あこれ百貨店ってあの、上の方に展示スペースみたいなのがあつて、ま、すぐに著名な作家さんの作品も見れたりして、やっぱり好きだなと思って。で、卒業制作本当はこう、な

んて言うんですか絵も描きたかったんですけど、あやっぱ俺、あ夜勤好きだなと思って：まこういうのをはい、作りました。タイトルは『夜勤』です。以上で僕の卒制の発表を終わります、ありがとうございます、ありがとうございます、ありがとうございます

橋本、お辞儀をする。

橋本

：まあ、ていう感じであの、僕が美大を卒業したのがもう10年ぐらい前ですね。まあ教授からの講評は非常に悪く：「だから何？」みたいな聞かれて、ため息つかれて。「もっとむきだしをみせてくれよ！」とか言っつて、いや、むきだしてこれなんですけどみたいなでも、僕の同期の、絵がめっちゃうまくて、ちよつと有名な作家なんで皆さん名前ぐらい分かると思うんですけど佐伯って、あいつだけがなんか「Writer」で褒めてくれたっていうか。ちよつと今そのツイート読み上げますね

橋本、スマホを出す。

橋本

ええ、「油画科の卒制展、同期たちの作品を見てきた。どれも素晴らしかったが、中でも一番良かったのが同じアトリエだったハシモン」あ、これ僕のおだ名です。「ハシモンの作品『夜勤』だ。そこには人生があった。上に乗られるではなく下に潜らされる脚立たちと空間の分断を表している養生テープの壁は、普段私たちがそういう用途のモノだと(続く)」あこれ次の続いてますね。「しかみていない日本の日雇い労働における搾取をあらわしている」あこれ、誤字です、表している「だけでなく、地獄の門を模すというユーモラスさを感じる。4年間の最後で完璧に超えられてしまったと、しばらく打ちひしがれて動けなかった。いつかもう一度彼の絵を見てみたいとも思う。」1リツイート、31いいね。この1リツイートは僕です。で今そんな僕は、バイトしてた夜勤の正社員になっております

一台のマネキンを指して。

橋本

あの、見えますか、あのマネキンが着てる、あの服着て、あんな感じで働いてるんですけど。で帰って速攻で寝ます。最近、過去の夢ばっか見てますね。なんか美大行ってた時の、絵をすごく描いてた時の。で、なんか、なんか今もすごい眠くなってきた、これも夢なんじゃないかと思っつてきてんですけど、てかこれ俺今、誰に喋ってんですか？え、これ夢ですか？なんか俺そこに飛び込んだらなんか過去に戻るんじゃないかなっていう気がして：ちよちよ、ちよつと飛び込んでみますね。これいけるかな：あの、そこ飛び込んだら、過去が始まります。これ、行けなかったらごめんさい。じやあいきます…：よつ

橋本、過去（舞台）に飛び込む。  
足を挫く。

橋本

あ！ 痛、痛あ

10年前の美大生時代に戻る。  
電車の音が聞こえる。

## 2 — 過去①

橋本と阿部が大学生の時。  
電車に乗って手すりを掴む橋本と阿部。  
大船駅に到着する。  
二人とも百貨店へ向かう。  
足を痛がっている橋本、阿部に気づいている。

橋本

：

橋本、後ろから話しかけた時に相手がびっくりしたことがある経験から、びっくりさせないような話し方を心がけている。  
橋本、道中で阿部に話しかける。  
イヤホンをつけている阿部。

橋本

あ、あ

阿部

：

阿部

阿部くん

橋本

うわびっくりした

橋本

あ、あ、ごめんびっくりさせないように話しかけようとしたら、め

阿部

っちやびっくりさせちゃった

橋本

ああ、ああ

阿部

こそ、すまんすまん

橋本

おお、いや、イヤホンしてたから

阿部

ああ、わかる。イヤホンでこう集中してると周りの声全然聞こえな

橋本

くなるよねわかる

阿部

うん

橋本

何聞いてた？

阿部

：：：（笑う）

阿部、イヤホンをしまう。

橋本

え、ちよっと、何、何？

橋本、安物のベルトが切れていることに気がつく。

橋本

ちよ、ちよっとベルトがはち切れて

阿部

ああそうなの？

橋本

ちよっと、一瞬だけ

阿部

大丈夫？

橋本

ああ、歩いて行こう

阿部

うん：

ベルトをなおす橋本と阿部、歩いていく。

阿部 え、今日予定ないの？

橋本 ないよ

阿部 えークリスマスで？

橋本 ないよ

阿部 おー仲間だ

橋本 まあ時給上がるしね

阿部 あーそうだね。てかさ：あーイルミネーション破壊したいわ俺

橋本 え、どういうこと？（ベルトをなおしながら）

阿部 話聞いている？

橋本 いや聞いているよ

阿部 いやなんかさ、イルミネーションさ、バックで写真撮ってる時に、

橋本 カップルごと爆破してやりたい

阿部 ああ。え？ いや俺そこまでではないな

橋本 この時期さ深夜に結構たかるからさ

阿部 へええ

橋本 なんか撤去中に限ってよく知らないけど。去年も話しかけられた

阿部 あ、そう

橋本 「撤去しないでくださいー」ってなんか酔っ払った男女に。いや

阿部 お前らを撤去してやりてえよって。できっとそのあとさ、ホテル

橋本 とか行っただよ非常にお下品ですわ

阿部 ああ。でもそのイルミネーション撤去するの俺らだからな

橋本 やーマジでボコボコに撤去するわ

阿部 ……寒い

橋本 ね

阿部 あ、息が白い

地獄の門の入り口にいる橋本と阿部。足を痛がっている橋本。

橋本 なんか阿部くん、なんかいつもと雰囲気違くない？

阿部 え？

橋本 なんかオシヤレしてる

阿部 ……（微笑む）

橋本 なんか言えよ（笑う）

阿部 や別に普通だよ

橋本 え、なんかクリスマス意識してんの？

阿部 や、別に普通よ

橋本 夜勤なのにキメてきてんなー

阿部 いやいやいや。あ、てか川口中にいるかな？

橋本 あー、こないね川口さんね

阿部 あー今日に川口に、会ったらさ、第一声でメリークリスマスって言  
つてやるのかな  
橋本 え、川口さんに  
阿部 うん、今日なんか言える気がするんだよね  
橋本 ええそれすげーな  
阿部 まー川口って、俺より身長が低いから  
橋本 へへ（笑う）まあそういうのあるか  
阿部 あるある。っていうかクリスマスなんだから家帰りなさいよって  
橋本 あそっか  
阿部 うん  
橋本 川口さん小さいお子さんいるよね  
阿部 そうそう、意外だよねあの人に子どもいんの  
橋本 うん。子どもか  
阿部 二人  
橋本 あーそうか  
阿部 やー今日キリストの誕生日なのにそういうことするやつ多くて参る  
わ  
橋本 どういうこと  
阿部 いや今日キリストの誕生日じゃん  
橋本 どういうこと？  
阿部 や、カップルとかホテルいたりとかするじゃん  
橋本 あそっか  
阿部 そう、もう今日という日を弁えずに  
橋本 子どもの話からそういう話に行くとは思わなかった  
阿部 まあそうだねそれは。ちょっと俺拗らせてるからさ  
あ  
橋本 ああ  
阿部 なんかわく分かんないけど高い服着て来ちゃったんだよね  
橋本 やっぱそうだよな？  
阿部 （上着を指して）これ5万してさ  
橋本 これ5万すんの？  
阿部 今日初めて着る  
橋本 え、なんで今日？  
阿部 いやー、この後、夜勤終わったらタイ人と会う予定でさ  
橋本 タイ人？  
阿部 あ違った、台湾人だ  
橋本 そこ間違えない方がいいよ  
阿部 なんかせミで出会った子で、結構、面白い子でさ  
橋本 へえ  
阿部 なんかわく分かんないけど高い服着て来ちゃったんだよね  
橋本 えーいいいな。  
阿部 うん  
橋本 えーじゃあちょっと気になってんだ  
阿部 （服を整える）うん

橋本 えーいいなあー  
阿部 だからちよつと今日、頑張るわ、早く終わらせる  
橋本 さっきまでカップル爆破とか言ってたやつとは思えない  
阿部 ああそうだね  
橋本 てか川口さん来ない？  
阿部 あ、そうだね  
橋本 てか佐伯も来てないな  
阿部 ああ、あの子？  
橋本 あいつな：全然時間まもんねえからさ  
阿部 先に入館証もらいにいこつか  
橋本 そうしよつか  
阿部 ：なんだ川口遅刻か？

地獄の門の従業員入り口に入っていく。

阿部 家で子どもが待ってんぞー

川口が入館バッジを持っており、指示書を見つめている。

橋本 あ、川口さんおはようございまーす  
阿部 おざまーす（小声で）メリクリスマス  
川口 何してたの？  
橋本 え  
川口 遅くない？  
阿部 あ、外で待ってて  
川口 なんで中入らないの？ 寒いじゃん  
橋本 ああ  
川口 あれなについていうか今日二人？  
橋本 ：あれ、佐伯って来てないすかね？  
川口 お前が連れてくんじゃないの？  
橋本 あいや、なんか、ここ集合って伝えたんですけど  
川口 ：いいや、あいつ使えんし  
橋本 ：あー

川口、入館バッジを渡す。

川口 これつけて  
橋本 はい  
川口 早急にやることいっぱいあるから

橋本、入館バッジを胸につける。  
阿部、入館バッジをズボンにつける。

川口 (それを見て) あ、お前胸につけて? 前もなんか変なところにつけて困るから  
阿部 あ、困る?  
川口 うん。自分が誰だっけってことちゃんと証明して。入館証だからさ  
阿部 はい

阿部、胸につけようとする。  
が、つけない。

阿部 (ズボンの部分に) あ、こっちつけていいですか?  
川口 は?

阿部 あ、こっちでも見えるっていうか、証明はできる

川口 胸につけるよ

阿部 あ胸っ、5万

川口 あ?

阿部 いや

阿部、胸につけようとする。  
が、つけない。

阿部 持ってちやダメですか

川口 ちゃんと服につけるよ

阿部 いや手で見せた方がわかりやすくないですか?

川口 みんなつけてんだからつけるよ

阿部 じゃあズボンに

川口 だから胸につけるって

阿部 (上着を触り) これそういう素材じゃ

川口 なんだよ?

阿部 はい、つけます

阿部、つける仕草をしながら、結局つけない。手で持っている。

川口 B1倉庫移動するぞ  
橋本 あ、はい

### 3 — 倉庫①

倉庫に移動する川口たち。

川口 散らかってんな

川口、倉庫の備品を見つめる。

川口 いいや、これ片付けて

橋本 あ、はい  
川口 片付けからいくから

橋本 はい  
川口 そっちじゃねえよ、こっちだろ。これついて

川口、備品を指して指示。

川口 前あったところ戻して

橋本 はい。ま、前？  
川口 (阿部へ) ちょっと手伝ってやって  
阿部 はい

阿部、バッジをつけていない胸元をコートで隠している。

川口 じゃあ前に出して、ちょっと待て！ 傷つくだろ？ ちゃんと、あ

橋本 ああ、上げ、はい

阿部 じゃあせーので  
橋本・阿部 せーの

川口 ゆっくり倒して、前に出して

指示に従って備品を動かす橋本と阿部。

川口 おい、ぶつかる

備品同士がぶつかって音を立てる。

川口 おいぶつかってるって！

橋本 あすみません  
川口 (阿部へ) お前、前になきやだめだろうなあ！  
阿部 はい前

阿部、自分の思う前へ出てくる。  
備品同士がぶつかる。

川口 しっかりとしてください

備品が川口にぶつかる。

川口 :

橋本・阿部 :

川口 一旦下ろして、あ、立てて下ろしてな？ うん、ちゃんと最後まで話聞け？ ゆっくり、立てて、おろせ

橋本 はい

備品を動かし終わる。

川口 お前なんでコートきてんの？

阿部 はい？

川口 引つかかると危ないのでその服装やめてください

阿部 :

川口 アホじゃないんですから。あと革靴もだめです

阿部 これもすか？

川口 だめです。アホです

阿部 あほ :

阿部、丁寧にコートを脱いでいく。

アナウンス 間も無く、レストランフロアを閉じさせていただきます。明日も、お客様のご来場を心よりお待ちしております

川口、アップルウォッチを確認。

川口 いいや荷物そこにおいて、待機してて

川口、倉庫から出て行こうとする。

橋本 あ、なんか人手いりますか

川口 いやいいやカードキー必要だからいらねえよ

橋本 はい

川口 (阿部へ) お前なんで入館証つけてないんだよ

阿部 あ、いや。あれなんだ。(独り言のように) あ、ちょっとコート脱いでる時に、あ、これで(首の装飾を指して)証明できました

川口、去っていく。阿部、入館バッジをつけずにポケットへ。倉庫を片付けたりする。

阿部 あいつやべえな

橋本 ね。確かに

阿部 うん。てか倉庫の中臭過ぎる

橋本 確かに。排水溝とかの管あるし

阿部 絶対有毒なガス出てるわ

橋本 ああ出てそー

阿部 アスベスト使ってそー

橋本 ああ懐かしいそれ

パイプからじよぼじよぼと排水が流れている音がする。

阿部 あ。上の階からしよんべん流れる音

橋本 ああしよんべんとは限らんでしょ

阿部 服臭くなんだよな

橋本 そうか。え、大丈夫その高いやつ？

阿部 そうなんだよねー

橋本 てかその台湾の人と予定あるのに夜勤入れてよかったの？

阿部 まあ会うの明日の朝だし

橋本 あー

阿部 俺今金全然無いし（服を掴み）これに使ったから

橋本 どこで買ったの？

阿部 なんか原宿で一年に二回だけ開いてる店

橋本 そういうとこいくの？

阿部 ううん、偶然開いてて。ノリで買った

橋本 そっか、えーすげえ、俺そういうことはできないな

阿部 なんか膝大丈夫？

橋本 ん

阿部 さっきから足

橋本 ああこれは（笑う）ふうふ、いや、なんか全然

阿部 挫いた？

橋本 いや、なんてんだる（笑う）いや、お恥ずかしながら、飛び込んだ

阿部 飛び込んだ？

橋本 うん

阿部 え、なんでそんなことすんの？

橋本 まあ、いい絵が描けなくてのな

阿部 お？

橋本 いい絵が描けなくて

阿部 なに

いやなんだろうなんつうかね、ああ、今美大の課題でさ油絵を描いてんだけどさ、まあいっちゃうと、くそつまらん作品なわけなのね



橋本  
で最終回で主人公のネロが、犬のパトラッシュと亡くなる時に教会でルーベンスの絵画を見るんだけど、アヴェ・マリアが流れてるシーンで。「これを観ただけで僕は満足です」的な台詞言ってるエモい  
うんなんかすごい、中学の自分は感動して。そこから高校は定時制だったんだけど、なんか、絵画を描くのいいなって思って美大入って、みたいななんかを思い出せた  
ええやん  
うん（笑う）だから今日は、とりあえず画材分のお金を稼ぐ的な  
キリストの日に  
あそうね  
ていうか、他にバイトしてるの？  
あーたまになんか、先輩から撮影のスタンディングのバイトとか紹介されて  
へえ  
なんか俺の体格とか雰囲気合ってるらしくて  
おお  
テレビのバラエティとかのね  
えースタンディング？  
ま撮影前に芸人の立ち位置に立って、仮で台本読むみたいな  
えすごい、どんな芸人  
ま自分はサンドウィッチマンの人なんだけど  
あー言われてみれば  
そうそう  
え、本物と入れ替わっちゃえばいいのに  
ちよつと何言ってるかわかんないっす  
おー  
は、なんだそれ（笑う）  
ええやーん、え俺もさ  
ん  
お笑い芸人になりたくて、高校3年の時  
へー  
今ので思い出して  
ああ  
でも才能ないなって思って普通に今の大学行ったんだけど  
そっか  
でも今はね、俺歌い手になろうとしてるから  
えー歌い手？  
そう、ニコ動で千本桜とか初音ミクの消失とか歌って  
えーすご  
今日もイヤホンで聴いて練習してきたから  
あ、ようやく答えを知れた  
あ今、こいつ歌い手になれなさそうって思ったでしょ？

橋本 えいやいや全然思っていないよ  
阿部 ー。友達とか最近そのことめっちゃ弄ってきて飲み会とかで  
橋本 ええそうなんだ  
阿部 お前にそれは無理だろみたいなマウント。ま絶対歌い手になるけど

橋本 えーでもさー台湾の人に歌披露するとかいいじゃん  
阿部 ああなるほどね  
橋本 台湾の人ってアニメとか好きな人多いイメージ  
阿部 なるほど  
橋本 あとはまあクリスマススの歌とか  
阿部 まあ確かに  
橋本 あクリスマススでいうともう一個、最近知ったのがあってさ  
阿部 へえ  
橋本 ；あでもこれは別にアレだな、伝えてもなんかちよっと（笑う）

川口、服を着たマネキンを持って入ってくる。

川口 おーいちよっと  
橋本 あ、はい  
川口 話しないで動いてー  
阿部 ；ほい  
川口 （マネキンを受け渡そうとして）これ向こう持ってって脱がせとけ

橋本、マネキンをうまく持てず、上半身と下半身が分離する。

川口 おめえだから足の方を持つなよ  
橋本 あ、すみません  
川口 （阿部へ）お前は離れないように両方（上半身と下半身）掴んで  
阿部 ほおい  
川口 はい、そうそのまま置いちゃって。ゆっくりねーすぐ割れるからな  
マネキンを置く。

橋本 この服どうします？  
川口 あーもうそれ廃棄だからもらっちゃっていいよ  
阿部 え、いいんですか？  
川口 基本だめだけど特別な、メリクリスマス（プレゼント）  
橋本 えーあざっす  
阿部 あざっす  
川口 あー倉庫片付いた？  
阿部 あーこんな感じですよ  
川口 （倉庫を見て）おーいいじゃん、ありがとう。お前らはあれだな、  
背が高いと上の方まで手が届くからいいね。ありがとう

阿部 川口  
川口 橋本

：  
じゃあ俺、別のマネキン運んでくつから、それ解体してて  
はい  
あともっと片付けててもいいから

川口、去っていく。阿部、入館バッジを胸につける。  
橋本、服を脱がせていく。

橋本

とりあえず脱がすか

阿部

うん

橋本

(阿部に気がつき) あれ? (入館バッジを) つけてる?

阿部

うん (笑う)

橋本

え、つけたの?

阿部

うーん、やっぱり、つけとかなくちやとね

橋本

えいいのその服?

阿部

やなんか「ありがとう」とか言えんだな川口

橋本

あー初めて聞いたかも

阿部

あいつも考えてんだな

橋本

なに、どうしたの?

阿部

いや、やっぱ「ありがとう」っていう言葉って大事だよ

橋本

ええまあそれは大事だよ

阿部

あ、服どうする?

橋本

あもらう?

阿部

あーどうしようかなって

橋本

あ俺はいいかな、多分これ着なさそうだし

阿部

俺もらうていい?

橋本

ああ是非

阿部

ありがとう

橋本

うん

阿部

ありがとう

橋本

(笑う) えどうした?

川口、もう一体のマネキンを持って入ってくる。

川口

これもお願いね

橋本

あこれもバラして

川口

うん早くやって。それ終わったらイルミネーション撤去いくから

阿部

はい!

川口

(指示書を見て) あそうだその前に一階とエレベーターのポスター

橋本

交換あるから一人来い

阿部

あ

橋本

じゃあ俺いくね

橋本

うん、じゃあこれ脱がしとくわ

川口と阿部、去っていく。橋本、マネキンを脱がしていく。  
脱がし終わった2体のマネキンを絡み合わせて遊ぶなど始める。

#### 4——エレベーター

川口と阿部、ポスターを持って移動。

阿部 クリスマスっすね！

川口 ？

阿部 お子さんに何かプレゼントしますー？

川口 ？

阿部 ？  
とにかく早く終わらせて

川口 エレベーター前に着く。

阿部 (7ボタンの点灯を見て) まだ上に人いんな  
川口 上すか

阿部 レストランフロアで残って飯食ってる客がたまにいるからとりあえず、7階まで登っちゃって。その間にエレベーターのポスター変えちゃって

川口、ジャラジャラと沢山ついている鍵を差し出す。

川口 これがポスターフレームの鍵ね、でその鍵穴に刺して  
阿部 はい

その沢山ある鍵から一つを示し。

川口 でこれがエレベーター用の鍵ね。でエスカレーター用の鍵使うと抜けなくなるから絶対間違えないで

阿部 はい

川口 俺一階のポスター変えるからそれまでにやって

阿部 はい

川口 客が来たら一旦作業中断ね

阿部 はい

川口 鍵は絶対手放すなよ

阿部 はい！

川口、他のところにポスターを貼りに去る。  
エレベーターが到着する。

エレベーター音声 一階です。ドアが開きます  
阿部 今何時だ…

阿部、エレベーターの中に入り、スマホで時間を見ようとする。その拍子で鍵を落とす。

阿部 あ！ あれ？

どれがエレベーター用の鍵か分からなくなる。

阿部 あー多分これ、か？ うんこれだな、うん確か

阿部、ポスター入れの鍵穴にその鍵を入れる。抜けなくなる。

阿部 あ：クソ、硬っ：抜けなっ

エレベーター音声 ドアが閉まります

エレベーターは7階へ移動を開始。

阿部は抜こうと苦戦。7階に到着。

エレベーター音声 7階です。ドアが開きます。

エレベーターのドアが開く。

客がいる。

阿部 あ、すみません、今どきますー：

阿部のスマホに電話がかかってくる。

阿部 お（電話に出る）あもしもしユンさん？ ああもしもし！ はい、

日本の夜明け。うん……え、風邪ひいた？

阿部、咄嗟にエレベーターの外に出る。

阿部 え、大丈夫？ ああ……うんうん……それはうん、休んだほうがいい

か。あーいけないかー

エレベーター音声 ドアが閉まります

エレベーターのドアが閉まる。一階に向かう。

阿部、気が付く。

阿部 あっ（電話へ）ちょ、ちよっとごめん、あの追って、すぐ電話する

から、ちよっとごめん、ほんとごめん

阿部、ボタンを連打。だが開かない。



川口  
いいからいってください早く行ってください。あとペニシリン持  
て入り口前に来て。次は絶対忘れんなよ、お前本気で気をつけない  
と絶対変わらないタイプです  
はあ  
忙しい時に限ってこういう…あー

川口、去っていく。  
阿部、倉庫へ。橋本と合流。

阿部  
橋本くん  
きや。きやー阿部くん！  
よくここいられるな  
ちよっと何言ってるかわからないです  
あー

阿部、入館バッジを引っ張る。

阿部  
橋本  
阿部  
ああ！  
阿部くん、次の作業は聞いてきました？  
ああ  
それ高い服大丈夫ですか？ 阿部くんそれ、ゼロカロリーですか？  
（おふざけ）ゼロカロリーですか？ 阿部くん！

だが取れず、針を外す。

阿部  
橋本  
いや、俺が発達のあれかもしれないけど、ああ邪魔だ、消えるー  
ええ

阿部、鼻血が出ている。

阿部  
橋本  
阿部  
橋本  
阿部  
橋本  
阿部  
橋本  
うわちよっと鼻血出た  
まじで大丈夫？  
ちよっといや、血が上りすぎた（鼻を吸う）くそだ  
ティッシュだす  
あいやごめん、大丈夫、すぐ固まる（鼻を吸う）  
え、なんかあったの？  
いやちよっともう俺は絶対あはならないわ。絶対。（本当になん  
言っているか分からない）ごめんね  
ちよっと何いってるかわからないです  
あいつつてさ、なんか、口半開きのところあるよな  
えああ  
なんか、顎が弱いっつか、だから口が乾きやすいんだよ、だから  
川口なんだよな（笑う）（鼻を吸う）

橋本 阿部 あっ、あー  
川口な。(鼻を吸う) やー一人だとこーいうのダイレクトで食らうけど、こーして二人だと冗談っていうかデイスをさ(鼻を吸う)

橋本 そっか

阿部 (スマホを見ると圏外) あー圏外。くそ本当だ(鼻を吸う)

橋本 あーなんかあった?

阿部 いや先ず夜勤の正社員には絶対ならぬわ、狂うわ。人格も終わるそっか

橋本 え、どう思う?

阿部 ああ俺はまあ、俺はまあ好きっちゃ好きだけど

橋本 ああ

阿部 うん

橋本 いや、川口の話なんだけど

阿部 え、ああまあ川口さん言葉強いよねなんかね  
だからバツクレが大量発生すんだよ(鼻を吸う)

橋本 阿部、マネキンが来ていた服を着始める。

橋本 (もう一つの服) あ、そうだ俺こっちもらうね  
うん。外寒いしさ、着込んだ方がいいかも  
確かに

橋本も服を着替え始める。

阿部 え? 就活って考えてる?

橋本 いや(笑う)俺は作家一本だから

阿部 そっか美大は画家とかでフリーランスか

橋本 うん。教授に気に入ってもらってるから、助手とかにもなれそう

阿部 いや、まじで就活頑張ろう

橋本 あもう就活中?

阿部 そうそう。大手狙ってるから。(鼻を吸う) あーてかさ、子ども二人

橋本 いてクリスマスに夜勤やらせる会社とかやばいよな普通に

阿部 えそんなひどいこと言われたの?

橋本 うんもう家に帰りたい

阿部 あー台湾の人も待ってるしね

橋本 :

阿部 え?

橋本 いや(鼻を吸う) いや、あーいいやもう、なんでもいいや。明日の

阿部 朝は家帰ってワンコの散歩でもするか

橋本 え、ワンコいんの?

阿部 うん小型犬の、保護犬で、ここあって名前の

橋本 ここあちゃん。えーいいなあ

阿部 やまじでここでクリスマスは二度と迎えたくない(鼻を吸う)

橋本 同意だわ  
阿部 もうここあと過ごしたい（鼻を吸う）  
橋本 やっぱティッシュだそうか？  
阿部 いい、いい、いい、大丈夫、奥までいった  
橋本 あ、そう？  
阿部 うん。あー家で録音してえ（鼻を吸う）  
橋本 そっか  
阿部 今度コミケとかで歌ってみたのCDとか出したいんだよね  
橋本 えー  
阿部 そう。そういうのも考えてて  
橋本 あじゃあ俺ジャケット描こうか？  
阿部 うそ  
橋本 あ、でも俺より上手いやついるからな（笑う）  
阿部 なに  
橋本 それこそ佐伯とかはガチだからさ  
阿部 ええ橋本くん描いてよ  
橋本 ま確かに、佐伯のは美術って感じだからな  
阿部 美大生に描いてもらえただけで  
橋本 やいや（笑う）：じゃあさ

橋本、スマホを見せて。

橋本 なんか、こんなの描いてんだけどね  
阿部 へえーいいね（鼻を吸う）

阿部、10年後の阿部になる。  
橋本、スマホをしまい、10年後の橋本になる。  
阿部、スマホを見ている。

橋本 それは？  
阿部 あー上の子ども  
橋本 今何歳なったんだっけ？  
阿部 4、いや、5歳なった

阿部、スマホをしまう。

橋本 あー…さてじゃあ今日も作業始めますか  
阿部 うん

5——現在①(37:32)

時間が現在となる。

橋本 あれ  
阿部 ん？

阿部 阿部くんは今日からこっちで新人見んの？  
橋本 そうそう新宿の方が担当外れて、急な引き継ぎ

清水が入ってくる。

清水 あ、お疲れさまでーす  
橋本 お疲れーっす

阿部 お疲れ  
清水 あ、どうもー

橋本 あーす、よろしくー  
阿部 あそっか、橋本初めてだっけ？

橋本 うん俺、最近事務所戻ってないから  
阿部 (清水へ) じゃあちゃんと

清水 あ、今年から新入社員で入社しました清水です  
橋本 ああ初めましてー

清水 あ、メールで一度CCで連絡してもらったことあって  
橋本 あー、その清水くんか

阿部 そうなんです  
橋本 こいつも橋本と同じ美大出てるよ

清水 あ、へー  
橋本 はい、そうらしくて。

清水 え、学科は？  
橋本 あ芸術学科です

清水 芸学懐かしい  
橋本 先輩は

清水 ああ油画だった俺  
橋本 えめっちゃ倍率高いところじゃないすか

清水 もう卒業したの10年ぐらい前だから  
橋本 へえ  
阿部 俺と一緒にバイトしてたから

清水 あそうなんすか  
阿部 そう、そっから社員誘われて

清水 へー  
阿部 この作業着なんてもう10年ぐらい着てるよね

橋本 確かに、丈夫だよ  
阿部 ていうかさ、こいつなんか川口に似てるよね

清水  
橋本  
清水  
橋本

川口？  
あー言われてみりゃ確かに  
え、誰っすか？  
俺らの先輩

阿部、スマホを弄る。

阿部

一年ぐらい前に辞めたんだけど、その理由が笑えて（スマホの動画  
を見せる）これ

清水

え、これなんすか？

阿部

これあれ：ガストの、猫の配膳ロボットに、ほら今、飛び乗っては  
しゃいでるガキいるでしょ。「乗れた！」とかほざいてるこれが川口  
の子どもで小学生の  
ええ？

清水  
阿部

これ撮影してんのが川口のもう一人の中学生のガキなのね。そいつ  
がネットに上げちゃって、ガレソに取り上げられて炎上してんの。  
それで親のことも晒されて、それで川口辞めた

清水

ええまじすか

阿部

ま川口の子どもってなんかイメーシ通りだよ

橋本

ああ

阿部

若者もこういうSNSとか気をつけて

清水

あー、俺そういうのは大丈夫っすね

阿部

気をつけるよお前川口に似てるから

清水

え、どんな理由すか（笑う）

阿部

まいいや、じゃあ先ずマネキンから片付けて

清水

あ、すみません阿部さん、一つ

阿部

はい

清水

これ追加の指示書っす

阿部

は、いや聞いてないんだけど

清水

いや今日じゃなくて、まだ先のクリスマス撤去と新規設営のやつで

阿部

なんでお前持ってんの？

清水

あ、事務所から今日大船行くならついでに渡しといてって言われて

阿部

えーなににな

阿部、指示書を受け取る。

清水

あ橋本さんも

橋本、指示書を受け取る。

橋本

…

阿部

何これめっちゃ多いな

清水

あやっぱそうっすよね

阿部　　そうっすよじゃねえよなー  
清水　　ああ  
阿部　　6時超えるぞ多分。え、なにヘルプ新宿から呼べんの？  
清水　　や、新宿もやばいみたいで  
阿部　　えー  
清水　　大船はバイトどんぐらいすか？  
阿部　　いや全然減った

橋本、指示書で大学の同期が展示予定だということを知る。  
阿部、スマホに電話がかかってくる。

阿部　　（着信相手を見て、電話に出る）あ、どうした。ああ、うん。え、  
今に？　え、あちっと待って、うん、待って

阿部、その場から離れて電話しに行く。

清水　　あ。橋本さん？  
橋本　　はい

（指示書を見せて）この人のこと知ってますか？

清水　　え？  
橋本　　あ、レストランフロアの下のギャラリーの、そこで26日から展示  
する、画家なんですけど。佐伯っていう

橋本　　あー  
清水　　今二科展とか入ってきてる人で  
橋本　　あ、そうだよなー

清水　　画壇の、なんか最近売れ出した人っすよね  
橋本　　ああ、まあね

清水　　大学の冊子にもこの人のインタビューとか載ってました  
橋本　　え、へえーそうなんだ？  
清水　　そうですね

橋本　　へええ

10年前に卒業だから歳近いっすよね

清水　　あー、まあそうね、うん、まあ、同期だね、一応  
橋本　　え、そうなんですか？　あ、そっか油画科だから  
清水　　そうそう、まあなんか、頑張ってるよねめっちゃ  
橋本　　ええすごい

まあ、あれよね、ま、一緒のアトリエにいたんだけど、才能はまあ  
そんな時からあったっつか。まあ、このバイトばっくれたことある  
絵以外はダメなやつで

清水、橋本の肩に手を置く。

橋本　　お？

清水

あ、すみませんちょっと立ちくらんで

大丈夫？

清水

はい、あの疲れるところなるんで

橋本

ああまあそうだね、それはまあ先輩の肩を借りてもらって

清水

へい。あ、話し続けてください

橋本

え

清水

あはい、続けて

橋本

：あ、まあそれは結構なんか、大学時代から自分の絵に社会風刺的

清水

なのをよくいれるタイプだったね。まあなんか、戦争とか大きめな

橋本

事件とか。そういうのが世間にうけた的な？ まあ俺は全然いいと

清水

思うんだけどね

橋本

ああ

清水、橋本の肩から手を離す。

橋本

大丈夫？

清水

あ、大丈夫です

橋本

うん。それでまあ、基本はなんかネットとか本から引っ張ってくる

清水

情報をコラージュする的な。まあでもなんかそいつ実家がめっちゃ

橋本

太いから、うん。だからなんてんだろう、安全なところから話題な

清水

事件についてを取り入れて絵にして、結局権威とお金大事ですよー

橋本

みたい。ま、人気だから全然いいんだけど、俺も別に気にはして

清水

ないし

橋本

ああ

清水

まあその親も割と有名な画家だから二世的な

橋本

あ、そうっすよね

清水

そうそう、だから基本美術界隈って実家のデカさに成功のデカさが

橋本

比例するから。そこらへんがまあクリシエだね、まあ俺は全然い

清水

いと思うんだけど

橋本

っすか

清水、橋本の肩に手を置く。

清水

あー

橋本

ああ、まあ先輩の肩借りてもらって

清水

え、好きですかこの絵

橋本

え

清水

佐伯、さんの絵

橋本

うーん：ま、好きかな。うんまあ別に、そんななんか、俺はまあ関

清水

係はほぼ多分ないっていうか

橋本

え、橋本さんは絵を描かないんですか？

清水

んー、ま今は俺、この仕事でもう十分っていうか、かなり今の仕事

橋本

好きだからっていう、(肩に置かれた手に関して) ちょ、ちょっと

うこれ、いいかな？　なんかこれあの下の方に下がってくるとくすぐったくて

橋本、清水の手をやりわりと退けるようにする。

清水　あ、すみせん  
橋本　うんそうだね座ったりとか  
清水　あ：はい、そうっすね、うん、あ、もう復活しました、すみせん  
橋本　あそうなの？

遠くから阿部の大きな声がする。

阿部　だから、だからそれをなんとかして。それを今やってきてるわけだから、今言わないでもらいたんだってことはわかってくれてることだから、本当に理解してそれは。足りてねえだるどう考えても

阿部、電話を切って戻っていく。

清水　え、大丈夫すか  
橋本　ああ  
清水　え、バイトにキしてるんすか  
橋本　ああーいやそうかな  
清水　ていうか噂で聞いたんですけど  
橋本　うん  
清水　あの人休憩中にトイレでシコってるって本当ですか？  
橋本　：え、誰から聞いた？（清水が橋本の肩に手を差し伸べる）（それに気がつき）え、え、ああまた乗せる？  
清水　え、ああいや  
橋本　まあ別に俺先輩だけど、うん、まあそれはいいけど  
清水　あ、いやなんか肩にゴミついてたんで  
橋本　ああそう、ああ、ありがとう

清水、橋本の肩を何回か叩くようにしてゴミを取る。阿部、合流。

阿部　ああ、お待たせ  
橋本　え、大丈夫だった？　なに、バイトの子？  
阿部　ああ、いや。自分の奥さんに  
清水　奥さん？  
橋本　あ、結構こんな夜に  
清水　え、パートナー待ってるのに帰らなくていいんですか？  
阿部　ん？  
清水　パートナー  
阿部　え、じゃああなたにお前代わりにやってくれる？

清水 あ、まあそつすね、できることがあれば  
阿部 いやだつてお前まだ全然だろ  
清水 えー：いや、まあ（笑う）  
阿部 うん？ なに  
清水 いや

阿部 つーかあれは、お前の後輩のバイトは？

清水 あ、そっか

阿部 え、そっかってなに？

清水 あいや、入口のラベル貼り行ってます

阿部 えなんでお前見てないの？

清水 や、そいつもうかなり慣れてるんで

阿部 慣れてるとかじゃなくて現場にいなきやだめじゃない

清水 ああ俺、他の作業やったら時間短縮できるんで

阿部 や決まりだからさ

清水 や、でもなんか。前にその辺りは柔軟にやって的な

阿部 やラベル貼りはバイトに任せんよ

清水 や彼も美大生で丁寧っていうか

阿部 や美大生だから危険なんだよ。やつら誰もいないフロアとかだと突

然天才てれびくんとか歌い出すから怖いんだよ。いろいろ、やべー

清水 だろ

阿部 や彼はそういうことしないな

清水 あほんと？

阿部 ほい

清水 あじゃあそこまでいうなら信じるわお前のいうこと

阿部 ああ、あざす

清水 なんなんか気になることある？

阿部 やないっすー

清水 じゃあはいお前の作業戻って

阿部 はあい

清水 え、まじで信じるからね俺お前のこと

阿部 あ、はい

清水、エレベーターにポスターを貼りに去ろうとする。

阿部 あこれ鍵

阿部、清水に鍵を渡す。去っていく清水。

橋本、指示書をずっと見つめていた。

清水、エレベーターへ。ポスター交換を始めようとする。

だが鍵が抜けなくなってしまう。

清水のそのやりとり中に以下セリフ。

阿部 なんか大丈夫かあいつ



橋本  
阿部

美術関係かな？  
なんで。清水の？  
：あ、いやいや、任せた

橋本、エスカレーターの方へ向かう。  
阿部、清水がいるエレベーターのところへ。

阿部  
清水

どした  
(阿部に気がつき) あ。あれ？

清水、抜けなくなっている鍵を隠している。

阿部  
清水

なんか呼んだんでしょ？  
いえ：あれ？

阿部

橋本に今さっき連絡して

清水

あ：いえ別に

阿部

え連絡したじゃん

清水

あっ、もう解決しましたー

阿部

ん？ じゃ、なんで連絡した？

清水

あ連絡した後、何あったの？

阿部

あそうなの、何あったの？

清水

や別に  
いやなんの問題があったのって

阿部

いや本当に大丈夫なんで

清水

いや

阿部

いや本当に

清水

いやだから先ず教えるよその何があったのかっていうのを

阿部

いやこれは本当になんか

清水

つかポスター変えちゃって早く

阿部

はい、それははい

清水

うん

阿部

はいそれは

清水

いやなにちよっとどいて？

阿部

いや自分で

清水

いいからどけお前いいから

阿部

清水、鍵が抜けなくなっているのがバレル。

清水

ばかやろう

阿部

阿部、清水の頭を叩く。

阿部

ばかやろう

阿部

阿部、清水の頭を叩く。

阿部

阿部、清水の頭を叩く。

阿部

阿部、清水の頭を叩く。

阿部

ほらお前やっぱりミスってんじゃん抜けてねえじゃん

清水  
阿部  
清水

いや  
何隠したかったの？　なんで？　恥ずかしい？  
いや…

阿部、鍵を抜き取る。

阿部  
清水

だからほらエスカレーター用の鍵じゃんこれ、またやったなお前  
…あー、いや

阿部  
清水  
阿部

だからお前あれか橋本に連絡したんだろ俺に怒られたくねえから  
いや別の  
ダサいから嘘つくな

阿部、電話がかかってくる。

阿部

ん

阿部、スマホを見る。着信相手を確認。

阿部

(溜息) あーっ…今なんでこれ

清水、その隙に阿部から見えない位置で手をピストルの形にして、  
頭を撃ち抜くようなポーズをしれっとバレないようにする。

阿部  
清水  
阿部  
清水  
阿部

はあ…(スマホの着信を無視して下ろし、阿部に気が付く) うん？  
(何事もなかったかのように誤魔化す) …

お前今…手の形、ピストル…

…え？　ハイ

ハイじゃねえだろお前。ピストルやってただろお前

え？

いやピストル。指で。俺に向けてただろ

あっ、あーいや…え、いや肩搔いてただけっすけど、指で…

なんなのお前さっきから

いやいや、マジで痒いところ描いて

…

ポスター交換をし、エレベーターから降りていく阿部。  
続いて清水。

阿部  
清水  
阿部  
清水

あのさ、別に俺にムカつくのはいいんだけど、エレベーターの中で  
ふざけんのはやめろよ  
え？  
っていうかお前エレベーターの中で橋本に電話したってこと？  
はいそれは

阿部 なにしてんの  
清水 いや鍵さしっぱだから  
阿部 うんだから最初から鍵をチエックしろや  
清水 まあそうなったから助けを呼んだんすけど？  
阿部 まあじゃねえだろ、なにお前キレてんのさつきから  
清水 え：そっちがキレてんじゃないですか？  
阿部 えお前自分がやったこと自覚してないからそういうこと  
清水 (遮る) ちよっと

清水、立ちくらみで阿部の肩に寄りかかる。

阿部 は？

抱きつく。  
振り払われる。  
橋本、エスカレーター付近で倒れている人を見つける。

阿部 いやお前なんなの！  
清水 すみません、これガチで今  
阿部 立ちくらみきて：  
清水 いやふざけんなって  
阿部 ちよっと、今はマジで：  
阿部 あ！ あ、なに！？  
橋本 もしもし：大丈夫ですか  
阿部 ー？ もしもーし、大丈夫  
清水 ですかー？ もしもーし、  
阿部 もしもーし(返答なし)  
橋本、阿部に電話する。

阿部、電話に出る。

橋本 あ、もしもし？  
阿部 はい  
橋本 あなんか今外のところ倒れちゃってる人いて  
阿部 ああ、こっちなんか倒れてるやついるわ  
橋本 え  
清水 (清水へ) ちよっとお前なあ、これどっちなんだ。本当にやばいの  
清水 かお前これ  
橋本 すみませーん：  
清水 え、大丈夫そっち？  
阿部 はあっ、はあっ、はあっ、はあっ！ すみませーん！  
清水 お前これ本当だな、本当のやつなんだな？  
橋本 すみませーん！  
清水 え、清水くん？  
橋本 あーだめだー！！ ほあっ、ほあっ、ほあっ  
阿部 え大丈夫そっち？  
清水 (清水へ) いいから話すな、声出さなくていいから  
阿部 いやもう声出さないと辛くて：！  
清水 出さなくていいから！

阿部、清水を持つとうとする。重くて持てない。

重い！

もうだめだ…だめだ…もうだめだ

阿部くん！

ちよつと、そつちはそつちでこつちはこつちでいいかな  
え、でもちよつと待って、こつち結構なんかやばいかも

(清水へ)ちよつと、ちよつと立てるかお前？

(立ち上がりつつ)もうだめだ…もうだめだ…もうだめだ…！

え立てんの？どっちなん？たてんの？

(倒れている人へ)え、ちよつと立ち上がって大丈夫ですか？

清水は阿部に、倒れている人は橋本に寄りかかる。

阿部 清水 橋本 阿部 橋本 阿部 清水 阿部 橋本

橋本

阿部

清水

阿部

清水

阿部

清水

ちよちよちよ

無理すんなお前、無理すんなって！

お前らのせいだもん…

あ！？

おまえらのせいだもん…！

移動するぞお前いいからおい！

おまえらの…せい…で…

清水と阿部、去っていく。

橋本に寄りかかった倒れている人がマネキンとなり、橋本はそのマネキンを片づけ始める。

10年前に戻る。

卒業制作講評後の橋本。  
マネキンの片づけを終える。立春フェアの設営を始める。  
遅れて阿部が来る。二人で設営を始める。

阿部 橋本くん  
橋本 おお、お疲れー  
阿部 町田の方終わった  
橋本 えーすごい、ありがとう  
阿部 あれ、また今日もそれ？  
橋本 ああ。なんか着やすくて。阿部くんも  
阿部 そうそう、なんか俺もこれ馴染んで  
橋本 え、卒業できそう？  
阿部 できるよそれは  
橋本 そうか  
阿部 そっちは？  
橋本 あーできるけど：卒制の講評はあんま良くなかったな  
阿部 どんな絵描いたの？  
橋本 いやー絵っていうかね、インスタレーションみたいな  
阿部 ー  
橋本 そう、なんか立体物。絵はなんか描かなかった  
阿部 佐伯って人はどんなの描いたの？  
橋本 あーあいつは優秀だから。すげーなんか、社会に対する風刺的な、  
阿部 油絵界ではなかなかない若い才能爆発みたいな反応で  
橋本 へえー  
阿部 なんかさー、今まで俺のことめっちゃ評価してくれた教授とかがさ  
阿部 一気にあいつのこと評価し始めて、うわーっていう感じになったん  
阿部 だよ  
橋本 ああー  
阿部 までも一応、同期だから接しはする感じで、でさっきまで佐伯と、  
阿部 夜勤の前まで一緒に江ノ島にいてさ  
橋本 そうなの？  
阿部 そうそう卒業前に冬の海でタバコ吸おうぜとか言って  
橋本 結構友達なんだ  
阿部 まああいつとは友達だけどなんだろう、なんかあいつは：完全に俺  
阿部 にもないものを持つてるから、おもしろいっちゃんおもしろいみたいな。  
橋本 でもなんだろうな、基本あいつ優しいからさ、俺の作品のことは褒  
阿部 めるといっかね、なんか、悔しいけどなんか褒めるんだよなあいつ  
阿部 ー：江ノ島ねー  
橋本 うん：あれ、そう台湾の人  
阿部 台湾、あー、特になにも



阿部 橋本 阿部  
え、マジか  
うん：なんか実は正社員で誘われて、やってみるかの。好きだし  
おおお：え、なんか嬉しいわ

阿部、入管バッジを示して。

橋本 阿部 橋本 阿部 橋本 阿部 橋本  
え、阿部くんも？  
うん（笑う）：誘われるのって本当に嬉しいよね  
え、マジで阿部くんも？  
そうなの、4月からここ（笑う）  
えーマジかマジか一緒に嬉しい  
ねー、マジで働く場所見つかった助かった  
だよ俺も好きな仕事しながらだったら作家活動続くなーみたいなの

川口が入ってくる。

川口 橋本 阿部 橋本 川口 阿部 橋本 川口 阿部 橋本 川口 阿部 橋本 川口 阿部 橋本  
おーお疲れー  
あー川口さんおはようございますー  
川口さんおはようございまーす  
うんなんていうか、二人とも、4月からよろしくお願いします  
ああはい、あらためてそれは  
こちらこそそれは  
うん。なんかまあ、やることはバイトの時と大きく変わるのが責任  
を大きく伴うってことだから、その辺は、しっかりしてください  
はい  
あと最近SNSとか、勝手に上げちゃうと大問題になるんで、そ  
こらへんは特に気をつけて。まそんな馬鹿いらないと思うけど。あと  
うちはね、基本バイトが足りてないから、やっぱり大学生の後輩と  
か、あとフリーターの人とか人員もつと呼んでくれると助かるから  
はい  
ああ、じゃああの人に  
ん？  
まあ使える人材呼んでくれると  
あ、じゃあだめか（笑う）  
ええ？  
佐伯さん  
あー佐伯ね  
あの子はちよっと、別世界で生きた方がいい感じがするから呼ばな  
いでもらって  
：んは（笑う）  
じゃちよっと休憩ね  
あ、はーい

休憩所に移動する。川口と阿部、タバコを吸い、吸いながら話す。

川口 さっきさ、外の、外壁フラッグ前で喧嘩してた2人組の奴らがいて  
阿部 はい  
川口 で片方が、相手のスマホ奪って、地面に叩きつけて、パアアンって  
阿部 ええ：  
川口 で、散らばった部品がそのまんまで、こっちが掃除してさ

阿部 最悪っすね

川口 掃除する手間考えるよな……あとあれだお前ら、全然先なんだけど  
新人だからちよつと懇親会で出し物やってもらいたいんだけど

橋本 え、なんすかそれ

川口 ま、別にこれ強制じゃないからやらなくてもいいけど、やったほうが  
いいかな？

橋本 あー

阿部 えどんなのですか？

川口 なんでもいい、ウケればいいから

阿部 え、川口さんはどんなのやったんすか？

川口 まあ俺は結構簡単な方で、「入隊式」っってみんなの目の前でバリ  
カンで丸坊主にしたんだけど

橋本 それ簡単な方なんですか？

川口 まあ、やって。考えてもらって。あ火を使うのだけはNGね

阿部 それ以外は

川口 うん怪我と死ぬこともNGね

阿部 あーはい、やります！

橋本 え、マジがすげえな（笑う）

川口 （阿部へ）じゃあお前あればいいじゃん、クリスマスの撤去で  
めっちゃウケたやつ

阿部 え、あれすか（笑う）

川口 そうそう（笑う）いや、あれやるまでお前がそんなにやるやつだと  
思ってたかったわ

阿部 はい（笑う）

橋本 えすみません俺それ知らないんですけど、何があったんすか？

川口 あれお前いなかったっけ？

橋本 そうっすね、この前の撤去はおらずで

川口 朝4時にツリーの搬出トラック来るじゃん

橋本 あ、はい

阿部 そんなでクリスマスツリーの撤去の時はさ、毎年トラック来るのを知  
らせるために曲流れるだろ

阿部 アヴェマリア

橋本 ああ、はい

阿部 橋本くんも好きって言ってた

橋本 ああフランダース

清水 その曲流れてる時に、急に歌詞歌い出してさ（笑う）  
阿部 けへ（笑う）そうそう、阿部・マリアだから（笑う）

橋本 ああ

清水 や（笑う）それでき、トラックの運転手に何かお礼してつって俺が  
阿部 言ったら「阿部ですマリアです、歌います」とか言い出して（笑う）  
清水 やテンション上がって歌っちゃったわ（笑う）  
阿部 あれはアホすぎたわ、アホ中のアホだわ（笑う）  
清水 やーちよっと喉勝手に動いたっすわ（笑う）

橋本 んかかあっ！（笑う）

清水 かなりその場にはいないと分からないおわらいっすね

阿部 お前のあれ、俺動画で撮ってただけどさ、帰って子どもに見せ  
川口 たらめっっちゃ笑ってた

阿部 ええー！

阿部 すげんだよ、お前のこと真似して動画とか撮るようになってさ。超  
川口 気に入って（笑う）

阿部 えー嬉しいっすねー！

川口 あーおもしろ：だから橋本も頑張ってる。社員になったら受ける洗礼だ  
阿部 からこれ

橋本 やーむずいっすねえ：

阿部 橋本くんはあれあるじゃん、本物と入れ替わるやつ

橋本 （反射で）ちよっと何言ってるか分からないです

川口 お前それやりすぎだからやめて。別のにいつてみてほしいわ

橋本 え、あ、そっか、はい

川口 うん。まあ強制じゃないけど、やって？ じゃあ休憩終わりね

阿部 うーい

川口 今日トラック来るまで余裕あるけど早く終わらせて

阿部 しゃっ

川口 でも油断すんなよトラブルっていうのは一気に重なる時あるから

川口 去っていく。橋本、スマホを眺める。

阿部 橋本くん

橋本 :あ、ちよっと待って（ツイートを読んでいる）

阿部 早くいくよ

橋本 まじちよっと待って：ちよっと：ツイートだけ

阿部 （少しイライラ）休憩終わったよー

阿部 去っていく。橋本、そのツイートを見続ける。

橋本 （笑う）：ふ：佐伯

リツイートする。スマホをポケットにしまう。

10年後になる。

7 — 現在②

阿部が戻ってくる。

阿部 橋本ー  
橋本 ーい  
阿部 ごめん電話終わった。じゃあツリーの設営始めっかー  
橋本 うん

ツリーの設営を始める阿部と橋本。

阿部 (鼻歌でアヴェ・マリアを歌っている) ♪  
橋本 もうこんな季節か  
阿部 はええなー一年が  
橋本 クリスマスプレゼントとか考えてんの？  
阿部 プレゼント？  
橋本 お子さん二人の  
阿部 何にしたもんかねえー  
橋本 俺からも何か送ろうか？  
阿部 …やー大丈夫。ちょっとまだなんかねーいろいろ難しいんだよね。  
橋本 上の子はさ幼稚園でガラス割っちゃったり問題起こしてるみたいで  
ええ  
阿部 まあ幼稚園が合わないっていうか、成長の段階でちょっと  
橋本 え、そうなの  
阿部 うん正直まだ原因ははつきりとは分からないんだけど  
橋本 えー、そうか  
阿部 前から疑わしいところはあったんだけど、それが環境のせいなのか自  
橋本 分のせいなのか分からなくて…で下の子が産まれたのもあって  
うん  
阿部 いろいろやること増えて  
橋本 うん  
阿部 今みたいな時間にも嫁から電話かかってくるし  
橋本 そっか  
阿部 こっちも大変なんだよ  
橋本 まあ両方ね  
阿部 …この時期だとユンさん思い出すわ  
橋本 ……ああ  
阿部 でも最悪さ川口のガキみたいな子に育たなきゃいいから(笑う)人  
様に迷惑かけない子になってくれればね(アヴェ・マリア鼻歌) ♪  
ツリーの設営を続けていく。

阿部 あ、清水がさー  
橋本 おお  
阿部 来週の撤去の日に復活すんだって  
橋本 大丈夫なの？  
阿部 知らね、本人がもう早く出たいですとか言ってるらしくて

阿部、指示書を確認。

阿部 あーマネキンしまうの忘れてんな  
橋本 B1倉庫？  
阿部 うん。あー俺運ぶよ。電話してた分作業してないし  
橋本 手伝うよ  
阿部 や大丈夫。(独り言) あーなんで忙しい時に限ってこんな重なんだよ

阿部、橋本を無視し、マネキンを運んで去っていく。  
ツリーの設営が終わったのち、クリスマス撤去の日となる。  
清水が登場。

清水 復活しましたーっ  
橋本 ちよつと本当に大丈夫？  
清水 すみません今日遅くなっちゃって  
橋本 いやいや、ツリー撤去に間に合ってくれたのは本当に嬉しいけど  
清水 いやもうめっちゃ元気なんで、ふうー(強めの息を吐く)  
橋本 本当に無理しないで  
清水 やーちよつと、休みもらってる間にいろいろ…考えることがあった  
橋本 ああ、そうなの？  
清水 や明日からっていうか今日から、佐伯さんの展示始まるじゃないですか？  
橋本 あそうだね、ギャラリイの方はもう…搬入終わってるみたいで  
清水 や、これからその人の展示の告知の、大幕を張るのって、ああこう  
橋本 という企業が？ 大々的にやっちゃうのってどうなのかな的な  
清水 え、なんだ？  
橋本 いや：橋本さんも前いったとおり…ああいうのが評価されるとま  
清水 ずいと思うんっすね。ああいう、社会的事件を搾取る表現は  
橋本 んん？ ああ  
清水 やーそれを参考に、そういうのが受けるって若い人らが作っちゃう  
橋本 んすよね両親いて裕福な家住んでる癖に。俺ん家離婚してて。で俺  
清水 の友達も亡くなってる。その、佐伯がネタにした事件の被害者で  
橋本 えええ  
清水 だから俺奨学金バリバリで美大入ったんすけど。で、実家が太いや  
橋本 つって実際の事件とかにアイロニーとかシニカルな目線で安全なと  
清水 ころから消費して金稼いで結局自分評価されたいです的な感じでパ

クリにして不幸をネタにするんすよ。その時点でただの暴力つうか、許可取ってないんですよ、名前出すのに。許可取らないで作ってるのがもう諸悪の権化なんですよ。許可取りっていう一番難しく一番大切なこと無視してんだから暴力でしかないんすよ。で、ネタにされたこつちからしたら、そういう諸悪の権化はなくなってもらいたいんですね。使用料払ってもらいたいんすよ。

えなんの？

いや俺のトラウマを無断利用したことに対し

ああ

なんか佐伯のこと考えたらPTSDみたいなの出てきて立ちくらんで

え、そうだった？

いやもちろんそれだけじゃないし、阿部さんとか、ここの労働環境

もありますけど

ああ

で鑑賞者もなんすよ。そういうエンタメと化された悲惨な事件と自分分は実は関係していませんとかほざいてる癖に、結局無関係なんだから救われたとかほざいて感動してるだけなんすよ。救われなきゃいけないのって先ず当事者なんすよね。それを無視して権力と金稼いでる表現じゃないっすか佐伯の絵も。安全なところからネタにするのって見る方もする方もめっちゃ楽しいっすから

立ちくらみ大丈夫？

聞いてください。乗り越えないとなんで。鑑賞者も制作者も基本ちよづいてんすよ、この界限。なのに鑑賞者も制作者も周りのことちよづいてるとか言ってるんすよマジ終わってますから。この前の橋本さんの言葉聞いて思いましたね

ちゃんと聞いてたのあれ

ま本当に橋本さんがいったとおり、実家の太さと成功は比例するんで、まじでそこらへん奴らが批判するこの国と何ら変わらないっすよね。俺マジで納得しましたもん。佐伯に対してやっぱ同級生の橋本さんもそういうこと思ってたんすね

ちよつとお前休んでる間に何があった？

いや別にこれが本当の俺です

なんか早口すごく

や：だから俺は、これちよつと見てください

清水、スマホを見せる。

なにこれ？

今俺XとかインスタとかFacebookとかでこういう活動してるんすよ。実家が太い搾取野郎とは違って、ちゃんと目の前の人と向き合ってる。今、俺の家を解放してるんです

は？  
これ俺ん家の住所です

橋本

清水

橋本

清水

橋本

清水

橋本

橋本

清水

橋本

清水

橋本

清水

橋本

清水

橋本

清水

橋本  
清水

え、本当に何これ、晒してんの？  
いいんですこれ。こういうクリスマスとか年末とか、今悩んだり  
困ったり苦しんでる人に、どんな人でも、誰でも、逃げ込んでいい  
よって、俺の家に住んでくださいって始めたんです昨日から。「#  
(ハッシュタグ) 清水家ご自由に」って。鍵なんてなくていいん  
ですよ。血のつながりもなくていいんですよ。血のつながりが世界壊し  
てんすよ？

橋本

これなに、今お前がこれやってんの？

清水

そつすねーこれが本当のアーティスト活動ってもんですから

橋本

え、これ鍵あきっぱなの？

清水

ま今はルームシェアしてる友達が仕切ってくれて

橋本

賃貸で？

清水

そうっすね、戸建ての一階で、トタンの、古くてすごく安い

橋本

大家に許可取ってんの？

清水

…取ってます

橋本

いや取ってないでしょ。取れないでしょ？

清水

いや家賃はちゃんと払ってるんで

橋本

いやいやそれはさ

清水

まあ俺はとにかく今は一(いち)労働者ですけどね…疑問を抱えな  
がら作業しますけど

阿部、肩に養生テープのかけらをつけて戻ってくる。

阿部

バイトも来れねえし…

清水

あ

阿部

ああ、お疲れっす

清水

…お前本当に大丈夫？

阿部

あ全然大丈夫っす。本当に、すみませんでした

清水

…はい

阿部

あ、あと阿部さんちょっと、これ

清水

清水、阿部に独自の質問票を渡す。

阿部

なにこれ

清水

質問票です。空いた時間にご記入ください

阿部

なにそれ

清水

働き方について、いろいろな考え方について教えてもらいたくて

阿部

ん？

清水

阿部さんだからこそ頼みたくて。いやあの僕の周りとかだとハラス

阿部

メントとか気をつけてるんですね。でも弊社みたいなブラックボツ

清水

クスの会社はそういうの行き届いてないんで。だからこそ率直な

阿部

ご意見をお聞きしたくて



清水  
阿部  
清水

いやまじ早くやりましょう本当に。終わらないっすよこのままじゃ  
おい  
それ絶対書いてもらって。ちよっと俺ツリーの電飾切ってもらおう  
うに操作室にお願いしてきます（走る）（独り言）負けねえ

清水、走って去る。

阿部  
橋本  
阿部  
橋本  
阿部

（頭痛）：先ず、人事はなにやってんの  
強烈だね  
あれ、Z世代？  
いや特殊だと思う  
（ため息）はああ：

阿部、指示書を読む。

阿部  
橋本  
阿部

つうかこの展示してるやつって、あのよくバックレた佐伯？  
ああ、そうそう  
でかくなっちゃって：現場のこと見捨ててきたのに立派にこうやっ  
て：だからアートするやつ嫌いなんだよ

阿部のスマホに電話がかかってくる。

阿部  
橋本  
阿部  
橋本  
阿部

あーまただ：  
家族？  
今帰れないから電話されてもな：  
え、俺と清水くんでやるっか？  
いや無理でしょ、3人でギリ間に合うかなんだから。マジさっきの  
時間本当に無駄だ：

阿部、スマホを見る。

何だよ本当に：（橋本へ）ごめんちよっと

阿部、電話しながら出ていく。清水、電話しながら戻ってくる。

清水

あ、それマジで：あ、それは分かった：：うん、ちよっとそれは、  
本当の一大事だね。うん、ごめんじゃあすぐに。うん

清水、電話を終え、橋本を見る。

橋本  
清水  
橋本

あれ、電飾ついたまま  
あーそのですね：ちよっとガチ今、大問題発生で  
ん？

清水 橋本

あの…さっきの、「#（ハッシュタグ）清水家ご自由に」  
うん

なんかそれが結構バズっていうか沢山きちゃってるみたいで、でも  
なんか、避難民みたいな感じでもなくて、結構、盛り上がりってる人  
たちが来ちゃって。で、バーベキュー…

橋本 清水

ええ？

なんか：アロハな音楽爆音で流されちゃってみたいな：で、焚き火  
を家の中で：窓外されちゃって、なんか支援物資とかストロング缶  
箱で持ってきた人いるらしくて人口密度やばいみたいな：いやまじ  
そこまでご自由になるとはっていうか：そのルームシェアしてる友  
人も大迷惑っていうか警察呼んだみたいな結構今拡散されて「#  
（ハッシュタグ）清水家ご自由に、実はグランピングだった」みた  
いな虚偽のポストも拡散されて：ガレソに

お前もガレソなの？

ちっと：馬鹿な大学生みたいになっちゃいました：ルーザーです俺

コンセプトがたがたじゃん：

やーでも実はこれが正解かもしれません。うん、実家が太くて裕福  
な口だけ表現野郎には、こんなことできないっすもん：ただ、大家  
さんもなんか激おこなので：俺の戦場は今ここではないということ  
が判明しました。帰ります

帰るってそれ：

他からヘルプ呼んでもらって

いや無理だよ、今からじゃもう

え、大学生のバイト：

こないよ、クリスマスだもん

ああ、俺の後輩も刀ピークリスマス之余韻を壊したくないから来た

くない的な

ちよつと一旦こっちこいよ

や本当に今は：

橋本 清水

電話を終えた阿部が戻ってくる。  
橋本、渋々できる範囲から撤去作業を始める。

橋本

おお

ん。ああ：

ちよつと今、清水くんが

あのですねー、ちよつと話すとき長くなるんですけどあのー：（スマ  
ホの何度も鳴る通知を見て）あー：ちよつと急なんです、帰らせ  
てもらいたくて

：

はい

（目を抑える）：んー

ん？

阿部 清水

阿部 清水はなんだって？  
清水 あ、帰らせてもらっていいですか、的な  
阿部 なんで？  
清水 あーちつと…俺の活動が…大分問題になっちゃって  
阿部 え、信じるって言ってたよな俺  
清水 ああ  
阿部 え活動を優先するから仕事できない？  
清水 まあちよつと理由が  
阿部 いやいやいやおかしい…えー。っあーだめだ。ちよつとだめだ俺。  
いや…いや待てよこれは

阿部、目を抑えている。

阿部 あっ…俺に帰らせて、いや帰らない  
清水 え  
阿部 俺に、俺は。お前はお願いだから残ってやって  
橋本 え何…？

阿部、スマホを確認。目をすぐに離す。清水もスマホを確認。

阿部 あーっ…どうなってんだ…いややつば帰らせて  
橋本 なに  
阿部 …いや飼いだ犬がさ、ていうかここあが、エレベーターで死んじやつ  
橋本 て、さつき  
え

そのなんだろう、上の子どもがさ、夜に犬散歩させたいって癩癩起  
こしちゃうターンに入ってて、どうしても。やいつもだったら、夜  
に散歩とか絶対しないんだけどさ、嫁もさ、もう疲れで参っちゃつ  
て癩癩止まらないから。で散歩終わって、エレベーターのドア開い  
たら、子どもが急に走り出して衝動で。それ追っかけて、ワンコを  
エレベーターの中に置いてっちゃったまんまで。首輪は危ないと外  
れるやつだったんだけど、変な形で顎に引っ掛かっちゃったままド  
ア閉まって、ドアにリード挟まって…そのまま上の階に上がって…  
ちよつとうちのマンション、古いから安全性が…

清水 …えーっ…  
橋本 それはちよつと…帰った方がいいね  
阿部 …それでも仕事が  
橋本 いや、気にしない方がいいって  
阿部 だから本当に悪いんだけど、二人で作業してもらって  
清水 いや俺も…帰る  
阿部 …帰りません仕事しますって言ったじゃん  
清水 いやちよつと変更ですね  
阿部 だっってお前…せめて二人なら延長したら終わるから



橋本 うん二人とももう帰っていいから。  
清水 いやちよっと違って、これあの（スマホを見せる）別の、仲間のグ  
ループラインで

橋本 （そのライン内容を見て）…え、え、え？ え、は？

橋本、自分のスマホを取り出す。すぐさまラインを調べる。

橋本 まて

橋本、電話する。だが電話が繋がらない。

橋本 ほんとにまって…

阿部、電話を切る。

橋本、何回か電話を掛け直したり、ラインを打ち込んだりする。

阿部、清水で帰るわ本当に…

え、そうすか

他のこと無理

あ、今ちよっと橋本さんも

マジもう、うん、本当に黙って、本当に喋るな

やちよっとアートの方で今かなり大っきい

黙れお前

（阿部の肩へ）ちよっと、さっきから養生テープついてるんすよ

あ！

すげー気になって

清水、阿部の肩の養生テープを剥がす。

阿部 触んなよ！

清水 剥がしてあげた！

阿部 邪魔だ！

清水 あ。森永っ♪

阿部 …はあ？

清水 あ、いや、ココアといたらっ、ていうか

：

阿部、すみません俺、本当にパニックになると思ってしまった

阿部 黙れ

清水 言葉っていうのが勝手に

阿部、清水を突き飛ばす。阿部、出て行くこととする。

清水、阿部にスマホを向けて撮影し始める。

清水 いやだめ、だる今のは（笑う）  
阿部 お前本当にもうやめる…  
清水 暴力だけはだめ、本当にだめ  
阿部 …（目を抑える）もう…何だこれマジで本当に…  
清水 上司からの暴力で俺の友達死んでるから、ネタにされてるから  
阿部 お前まじで黙れって！

橋本、電話相手と小さい声で話している。しやがみ込む。  
阿部、清水を追いかける。

清水 あんたいろんな人から暴力してくるって噂されてんの知ってるか  
阿部 黙れ  
清水 ひどい噂しか聞かないから。休憩中に多目的トイレでシコってることも噂されてるから  
阿部 お前何だ薬物やってんのか  
清水 仕事場のトイレでシコってんじゃねえよ！  
阿部 ええ、病気かお前！

阿部、清水のスマホを奪う。  
清水、広告台を武器にする。

清水 え容赦しないからな  
阿部 うわこいつはやばい！  
清水 （広告台を剣と盾のようにして）ゼルダ、ゼルダ！ おいゼルダ！  
阿部 子ども2人の親で何してんの！？  
清水 マジで黙れ  
阿部 子ども2人の親が何してんだよ！？ 絶対離婚するだろ子どもが可哀想すぎるだろ…！ 俺みたいに育つぞ！ ちよつと、（橋本に助けを求める）橋本さーん！ これちよつと今撮ってください！ これ、作品になりますよ！ 作品にしましょ！ 一緒に作品作りましょよこれ！ ちよつと、防犯カメラさーん！

阿部、清水のスマホを床に叩きつけようとするが、掃除が大変なので、両手で折ろうとする。

清水 離してください  
阿部 （スマホに対して）硬った  
清水 離してください！

清水、自分のスマホにつかみかかる。

阿部 返してください！  
清水 落ち着け、おおい！

阿部 痛い：痛い：ああ、やばい：ああ、ガチのやつきた：あー、ピーー  
ティーンったこれ。はあはあっ！ 友達を：失った友達を思い出す…

清水、過呼吸になって蹲っていく。

阿部 ちよっとお前おいこれ嘘つくなって！

清水 ガチだ：ガチだ：ガチだ：ガチだ：

阿部 お前、またこれ：本当かい

清水、急に立ち上がって阿部から自分のスマホを奪う。

そのまま全力疾走しながら逃げる。

清水 今いく！

阿部 おい待て！

清水、去っていく。

阿部 あーもー：あー何でこんなことに何だ：！ きついきつい…

阿部、鼻血が出る。

阿部 (鼻を吸う) あ、くそ：まただ (鼻を抑える) : あーああ

阿部、しゃがみ込んでいる橋本のところへ近づく。

阿部 : ちよっと大丈夫？ ちよっともう (時計を見て) もうトラック来

橋本 ちやうけど、もう無理だ (鼻を吸う)

橋本 え：

阿部 ちよっともう、諦めよう本当に

橋本 や：ツリー撤去しないと：佐伯の広告が設置できないから

阿部 いや、俺はもう、それは本当に今はもう： (鼻を吸う)

橋本 だってこれ佐伯の： (堪えられず) あああああ：

阿部 おい：頼むからさ

橋本 佐伯が死んじゃった：

阿部 : になよ

橋本 ええどうなってんだよ：まじどういうことだよこれ、どうして

阿部 ええ、ばっくれが？ (鼻を吸う)

橋本 いやあいつ：自分でなんか、本当に飛び込んだやつみたいで：あ

阿部 いつ、なんかそれこそ、俺、っていうか清水みたいなやつから：俺

橋本 : 俺： (堪えられず) ああ：：なんか裕福な奴が社会問題扱うな

阿部 みたいなことよくネットでも言われてて：あいつ：それが全部じゃ

橋本 ないけど：なんか「申し訳ございません」つって：自分から：自分

で

阿部 橋本

：（鼻を吸う）  
今、佐伯の：こと一番気に入ってた教授に電話繋がって…、でも、あいつが「最後に今の展示だけはしたい」って言ってたみたいで…

阿部 橋本

：マジか（鼻を吸う）  
だから：だから

阿部 橋本

マジか！  
これだけはツリー撤去させてもらえないでしょうか…？

阿部 橋本

：はあああ（しゃがみ込む）  
ツリー撤去しないとあいつの大幕設置できないから…！

阿部 橋本

あああ、だめだ  
（堪えられず）本当に俺今：わかんないおれ本当に：なんかさ、すぐに一瞬、あいつがいなくなったから、俺やっと絵が描けるんじゃないかかと思って…ああ、成功してる人って、亡くなるんだって…

…ああ、空いて…そこになんかもしかししたら自分もって…

…ああ、空いて…そこになんかもしかししたら自分もって…  
だ：もうそれ全部、全部、気持ち悪いんだ俺こんなこと思ってるからまじ死ぬべきなんだ、でも今絵を描ける気するんだ…

もう、帰ろうよ…

阿部 橋本

俺、こんな仕事、好きかわけねえのね、おれ。絵だけで評価されて

えの。絵で、絵で、食っていきたくて…もうなんで…もうなんで、あいつ死んだんだよ…本当に…あいつとのアトリ工は…かけがえない…いつもが……なんで飛び込めちゃうんだろうね

うん…うん…なんで死ぬんだろうな…（堪えられず）

…撤去しよう！早くツリー撤去しよう

…んう？（鼻を吸う）

これはもう、俺らが撤去しなかったら、大幕設置できないよ…

え、でも亡くなってるんでしょ

でも展示やるって、遺言やってんだからさ…やらなくちゃだめだろ

…？

でもう、（鼻を吸う）俺も帰りたいの…

こんなになたっくさん重なり合うことあるか？ 地獄だろ…

阿部 橋本

もういいって本当（鼻を吸う）

やるんだよ、なあ…！ いろんなデザイナーとかさ、それこそ佐伯とか色んな画家とかいるけどさ、最後を任されてんのが俺たちなんだからさ…！ 一番最後の仕事なんだからさ…！ だって佐伯の広告設置しなかったら、誰がやんだよ！

やだよしかも佐伯のためとか

いや、やるんだよ！ やります！ やろう！

お前もおかしくなってるって（鼻を吸う）いいじゃん、羨ましかったんでしょ佐伯が

は、なんだお前…

阿部 橋本

しかも橋本もう諦めてるでしょ…お前がやりたいこととかアートとか、もういいって…

阿部 橋本

か、もういいって…

橋本 阿部 橋本

ざけんなお前：お前の簡単な諦めと一緒にすんな。美大まで行つてんだよ！ お前の諦めと一緒にすんじゃねえよ！

（鼻を吸う）うん、ごめん：家族に会わせて？  
なにがごめんだよ！ 遅えよ！ 仕事しろよ！！ 今まで散々こつやうって後輩いじめてきただろ！？ 最近のお前見ると色々思ひ出すんだよ！ もうさ、人のこと散々傷つけるくせにさ、目的トイレでシコってんじゃねえよ！ アホか！ 子どもいんだろお前！ 2人も養ってんだろ！ てかなんで2人も作ってんだよ！

阿部 橋本 阿部 橋本

お前アホのままだよ、お前は！ こんな時だけ家族言い訳にしてさ  
いや家族のために仕事してんの  
ちげえだろ！ 家族のためとかいうならな、夜勤なんてすんな！  
お前が言つてたんだから自分で、川口に！ お前が自分で選んだ仕事だろ！？ お前が全部選んできたんだよ！

阿部 橋本 阿部 橋本

（鼻を吸う）もうやだよ  
知るか！ なんてお前家族作つてんだよこんな仕事やりながらよ！  
いいじゃん、俺の親、やっと喜んでくれたんだから  
しらねえよ！ はやくやるぞ！  
いいじゃん（鼻を吸う）……羨ましいんだよ……

阿部 橋本

俺だつて成功してもいいじゃん（鼻を吸う）……もう、馬鹿にされたくないんだよ俺（鼻を吸う）成し遂げたいの。他の、成し遂げる人みたいに……でもできなくて、もうわけわかんないままシコつてんの（鼻を吸う）……羨ましいことと、同じぐらいのもので補填しようとしてるの。でも全然同じじゃないの……（鼻を吸う）羨ましいな

阿部 橋本 阿部 橋本

……お前子どもいて羨ましがられるだろ  
一人目、クリスマスの際にできた子なんだよ……  
え  
クリスマスが夜勤ばつかった鬱憤もあったよ……世間の……クリスマス的なノリが羨ましくて……最低にアホすぎる……今日なんだよ……二人目は、それこそ、2人いる人たちが……羨ましかったからだよ……  
それで……ここあが……ここあが……  
……いいや、もう帰ってやっぱ。家族のところいけ

橋本

阿部、しばらくして立ち上がり、去ろうとするが、戻る。

橋本

早くいけよ……いかないの？

阿部 橋本

本当にすみません（鼻を吸う）仕事ができなくてごめんなさい  
もういいって！

阿部 橋本

転生したいです……（鼻を吸う）俺が誰かを馬鹿にしない、俺が誰かに馬鹿にされない世界にいきたいです……ポエムしてごめんなさい  
……もうわかったって！ もうおまえみてるって頭……

阿部　なれないことわかってたけど…俺…本当に歌い手になりたかったんです…

橋本　：  
阿部　センスと…才能を、ください…（鼻を吸う）…だれか、センスと才能と環境を分けてください

店内BGM『アヴェ・マリア』が流れる。

橋本　…：…もうトラック来てるじゃん…

阿部　ごめんなさい、本当に間に合わなくてごめんなさい

橋本　いや、もうごめんじゃなくて…

阿部　本当にごめんなさい…なんでもしますから…このとおりですから

阿部、『アヴェ・マリア』の歌詞を替え歌で歌う。

アヴェマリア　なにをもうまくいかな

おれうたいになりたあいな

だけどむりでしょおねと

みんなもだけどじぶんが　あきらめてる

ひとりぼっちのトイシ　スマホずうっとみてる

むだなことばかりをして　むだにいかされている

おれむりぢ

アベむりぢ　なにをあきらめる

おれしごとだけしてたあいなあ

だけどかなえたいこと

わすれていたはいはずでも　おぼえている

ほかにすることみつけ　これであきらめれると

えがおになれるものがいま　じぶんがほしいもの

アヴェマリア

阿部、その場にしゃがみ込む。

阿部　もうだめだ…：…ちょっと、荷物だけ取りに行かせて…

8 — 倉庫②

橋本と阿部、倉庫にくる。  
パイプからじよぼじよぼと排水が流れている音がする。  
荷物を持った阿部、しゃがんでいる。

橋本 阿部くん  
阿部 ……ごめん、横になっていい？

阿部、横になる。

阿部 倉庫って、寝転ぶと下の方はそんな臭くないんだな  
橋本 ……さっき、本当にごめんなさい  
阿部 ……レンタカーでトラック借りようか  
橋本 え  
阿部 ツリー運ぶ用の…俺運転するから…  
橋本 本当にいける？  
阿部 ……やっぱ帰ろうか  
橋本 うん、もういいから帰りな  
阿部 ちょっと家族に電話するわ

阿部、スマホで電話しようとするが

阿部 ああ、そっかここ圏外だ  
橋本 そうだね  
阿部 ……帰らないと  
橋本 帰りな  
阿部 ……でも、ここなら、今はもう、誰からも電話来ないかも  
橋本 ……  
阿部 ちょっと、電気消してもらっていいですか？

橋本、倉庫の電気を消す。

阿部 ああ、ごめん…俺のスマホの場所わかんなくなった…  
橋本 ……

橋本、スマホのライトで明かりをつける。

阿部 ああごめん  
橋本 あった？  
阿部 ごめん…あったかも  
橋本 ……



橋本、スマホの影絵を使い始める。

橋本

ちよつとこの脚立使うわ…じゃ、行きます！ 「なあ多恵子…綺麗だったよな外」「そうね。赤坂からばーっとイルミネーションが広がって」「外は警官が多かったな」「そうだね、警戒待機がここところ多いよね」「今年もこんなクリスマスマスか…」で、ここから無言になつてキスからの行為が始まったそうでした

阿部

ああー…俺も同じだ(笑う)

橋本

そう、警官の話から始まったらしくて

阿部

そういうもんよね

橋本、手で絡み合う。

橋本

「多恵子」「吉郎さん」「おまえここ、こんなに」「あなただって、こ

阿部

こ…」「多恵子！」「吉郎さん！」「多恵子！」「吉郎さん！」

橋本

ごめん…

阿部

え？

橋本

マジでやめて

阿部

もっと明るい話して

橋本

…

阿部

…明るいので…：…てらして

橋本

じゃあ…そうだな…：…うん

阿部

…

俺が…もう絵が描けなくなつて…：…すごく前に卒制で作ったのはさ  
…『夜勤』って作品で…：…そう使われるしかないって思われてるもの  
でも、それ以外の、使い方も、価値も、存在の仕方もあるってこと  
を、伝えたかった作品なのね。だから俺はなんか…もう、あの作品  
は当然撤去されたし、賞も入んなかつたし、気に入ってくれたやつ、  
一人しか…いないんだけど…：…今の、阿部くんこそ…：…あなたに  
こそ観てもらいたい。それが、俺が…：…まだ信じていたい、美術の  
力なんだ。それは佐伯も同じだったと思う…：…見てもらいたいから  
…自分以外の誰かに

阿部、うつらうつら。

橋本

…阿部くん？

阿部

…：…わかんないけどありがと

阿部、寝る。

橋本

…：…おやすみ。後で起こすから…

橋本、倉庫を出ていく。ツリー前、日がさしている。  
イヤホンをつける。クラシックの『アヴェ・マリア』が流れる。  
ツリーの撤去作業を始める。  
その動きが、卒業制作の作品を作っている過去と重なる。  
ツリーの撤去をし終える。  
佐伯の展示広告を設置し終える。  
その作品と広告が重なりあった奥から、誰かが手を挙げる。  
橋本も誰かに気がつき、応えるように手を上げる。  
夢から覚める。  
了。